

第13回「掛川考古展」

のぞいてみよう黄泉の国 掛川の横穴



とき

平成30年12月19日(水)～12月26日(水)
午前9時～午後5時 ※20日(水)は午後7時まで

ところ

掛川市立大東図書館 1階 生涯学習ホール

掛川市教育委員会 社会教育課

横穴とは

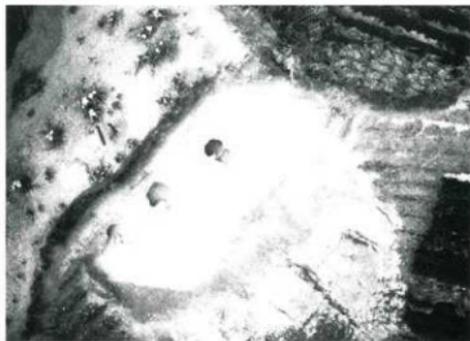
横穴（よこあな・おうけつ）は、古墳時代に造られた墓制の一つです。4世紀後半、大陸から九州に横穴式石室が伝えられました。それまで、日本の墓は縦に穴を掘る形のものでした。横穴式の墓は、ふたを外せば再び葬る（追葬といえます）ことができます。墓制の大きな転換であり、死後の世界観も変わったのではないのでしょうか。横穴式石室は、その後、九州から東に伝えられ、6世紀になると日本各地にひろがりました。さらに、横に埋葬する部屋をつくる考え方から、丘陵斜面上に横に穴を掘り墓室とする横穴が、5世紀後半に北部九州で誕生し、8世紀前半まで採用されていました。東海地域には6世紀前半に伝わり、宮城県北部まで広く分布しています。静岡県内では、東遠江、静清平野、狩野川流域に集中しています。県内で最も古い横穴は、6世紀前半の掛川市の向山横穴群1号墓（長谷）です。市内では横穴式石室よりも横穴が先行して導入されますが、横穴が造られる地域では横穴式石室はほとんど造られていません。これは、横穴式石室を造るための石材が十分に確保できなかったことが1つの要因であると考えられています。

横穴の構造は、遺体を埋葬する部屋である玄室^{げんしつ}があり、玄室の入口には羨道^{せんどう}という玄室への道がつくられ、横穴の入口は木の板や円礫^{えんれき}で塞がれます。玄室には石棺を設置したり、遺体を置く台を造ったり、礫を敷いたりしています。

横穴の変遷

導入期の横穴

市内で最古とされる横穴は、前にふれた6世紀前半の向山横穴群1号墓です。横穴式石室墳が登場するのが6世紀後半です。横穴の導入が先行することは何に起因するのでしょうか。向山横穴群は3基からなり、横穴群の造られている丘陵尾根上に古墳のような高まりが存在していることが特徴です。北部九州で造られはじめたころの



向山横穴群全景

横穴には尾根上に円形の高まりが見られます。向山横穴群には、古い横穴の形が残っているものと思われます。また、横穴の入口の床面に幅約10cmの溝が掘られており、そこに木の板をはめ込み入口を塞いだと考えられています。向山横穴群と同じ丘陵に立地し、4基からなる6世紀中ごろの前山横穴群（長谷）でも、尾

根上に直径 8.6mの円形の高まりがあります。さらに、入口の閉塞の方法が木の板によるものと石を積むものがあり、閉塞方法の変遷を知ることができます。

豪華な副葬品を持つ横穴

現在の掛川市役所の敷地内にかつてあった宇洞ヶ谷横穴（長谷）は特異な横穴です。死者を葬る玄室の大きさは、奥行き 6.3m、最大幅 4.3m、高さ 2.6mをはかり、その中央には長さ 4.5m、幅 3m、床高 0.9mの巨大な棺が造り出されていました。柄の先に鳳凰の飾りが付いた大刀や銀が多く使われた飾り大刀の他、青銅鏡、装身具、馬具、須恵器などが副葬されていました。玄室がとても大きく、また副葬品の数も極めて多く豪華で、権力を持った豪族の墓にふさわしい内容です。

宇洞ヶ谷横穴の北、同じ丘陵の先端には、6世紀中葉の山麓山横穴（中央高町）がありました。この横穴も、玄室の長さが6mと大きく、副葬品も豪華であり、宇洞ヶ谷横穴に葬られた豪族の先代の墓と考えられます。宇洞ヶ谷横穴の後に続くのは、横穴ではなく、大きさが南北 25m、東西 17mの円墳、堀ノ内古墳群 13号墳（長谷）です。宇洞ヶ谷横穴のすぐ南の丘陵上に立地する古墳ですが、主体部は細い丸太で断面形が三角形になるように組み、外側を粘土で覆い埋葬する部屋とした、横穴式木芯粘土室と呼ばれるものです。



堀ノ内横穴群D-1号墓の耳飾り



宇洞ヶ谷横穴の副葬品
（大刀柄頭、青銅鏡、玉類）

副葬品のうち、杏葉と呼ばれる鉄地金銅貼りの馬の飾りは龍が2匹からみあう見事な装飾が施されたものです。その後には続く堀ノ内D-1号横穴（長谷）からも堀ノ内 13号墳と同じデザインの杏葉が副葬されていました。これらの墓は、同じ谷に面して造られており、この谷のことを「王家の谷」という人もいます。

群集する横穴

東名高速道路のすぐ北にあった杉谷の丘陵に造られた茶屋辻横穴群(杉谷)は18基が調査されています。丘陵の東側に17基あり、西側には1基単独で存在していました。単独のB1号墓は他の横穴には見られない複室構造のものです。5号墓からは全国的にも珍しい特殊扁壺と呼ばれる須恵器が出土しています。6世紀中ごろから7世紀にかけて造られ続けた横穴群です。



群集する横穴(茶屋辻横穴群)

横穴は6世紀代から7世紀にかけて継続的に造られ、本郷の楠ヶ谷横穴群や下垂木の飛鳥横穴群、中の毛森山横穴群のようにいくつも支群があり、あわせると数十~200基ほどにもなる規模の大きな横穴群もあります。これは、古墳に連なる横穴の築造と祭祀が行える階層の拡大をあらわしているものと考えられます。

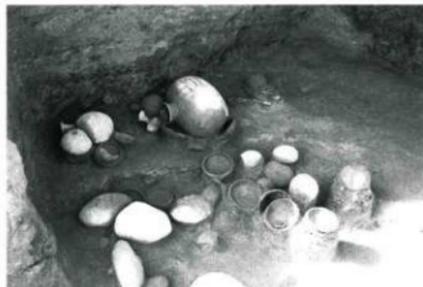
横穴の終焉

大規模に群集し、7世紀に盛期を迎えた横穴でしたが、7世紀中ごろ以降は新たに造られることは少なくなりました。寺ヶ谷横穴(下俣南)は7世紀末に造られましたが、単独で存在し、玄室と羨道の区別もなく横穴の体裁を失っています。22基が調査された南坪横穴群(高御所)でも、玄室と羨道の区別がなく、全長1.6mの小規模な横穴が発見されています。さらに、火葬骨と考えられる骨粉を納めた上師器甕が出土しており、火葬と横穴の関係を考える上で貴重な資料です。

横穴への追葬は8世紀前半まで続けられましたが、それ以降は横穴による墓制は廃れてしまいました。



玄室内の遺体(矢崎横穴群)



玄室内の土器(茶屋辻横穴群)

よみ 黄泉の国

横穴式石室や横穴には飲食のための器である須恵器や土師器が多く副葬されています。「あの世」においても「この世」と同じ生活があるとの認識があったものと思われそうです。『古事記』や『日本書紀』に記された国生みを行ったイザナギノミコトが、亡くなった妻のイザナミノミコトを黄泉の国に訪ねていく物語は、横穴式の墓に追葬する時の経験が元になっていると考えられています。死者のための空間である真っ暗な横穴式の墓室は、まさに「黄泉の国」のイメージだったのではないのでしょうか。

市内の横穴紹介

つちはし 土橋横穴群（富部）

6世紀中葉から7世紀前半に造墓された8基からなる小規模な横穴群です。須恵器、土師器、鉄製品、玉類などが副葬されていました。1号墓は原野谷川流域にあつては最も古いものの1つと考えられます。この地域へ横穴が導入された頃を示す貴重な資料です。

茶屋辻横穴群（杉谷）

東名掛川IC周辺は、小さな開析谷が数多く形成されています。この丘陵斜面には、数基から20基程度の小規模な横穴群が数多く分布しています。

その中でも茶屋辻横穴群は、西側斜面に単独1基、東側斜面に17基が造

られています。単独1基は6世紀半ばに造られ、その他の17基は6世紀後半から7世紀前半までです。特殊扁壺や銅製龍文毛彫り圭頭柄頭など特徴的な副葬品が出

ています。

おかつ 岡津横穴群（岡津）

東名高速道路工事中に発見されました。A群とB群の二つのグループに分けられ、A群は8基、B群は16基からなります。単



茶屋辻横穴群の須恵器



岡津横穴群全景

独で存在するもの、2基から5基単位で墓前域を共有するものが見られます。副葬品のうち、めずらしいものとして歩揺ほよろを付けた動物文立飾りどうぶつもんたてかざがあります。7世紀初頭から中ごろに造墓されました。



岡津横穴群の棺座

玉体横穴群ぎょくたい（中方）・明僧横穴群みょうそう（岩滑）

菊川の支流である佐東川流域には、小さな丘陵が形成されており、平野に面した斜面には多くの横穴が造られています。玉体横穴群は9基が調査されています。そのうち、第3号横穴は、横穴群中最も高い位置にあり、多くの土器の他、大刀、青銅鏡など多くの副葬品が出土しており、この地域で最も古い6世紀中ごろに造られました。明僧横穴群は、茶園造成により平成2年に新たに発見されました。3群が確認されており、2群がそれぞれ単独1基で造られ、さらに1群が7基と4基の二つの支群に分かれています。造墓は7世紀前半に始まり、8世紀前半まで続いています。玄室内には組合式石棺や礫床が残されています。須臾器、土師器の他、大刀、鉄鏃てつぞく、玉類が副葬されていました。



組合式石棺（明僧横穴群）



石で塞がれた入口（明僧横穴群）

兼情横穴群かなせい（海戸）

菊川の支流である下小笠川下流域の丘陵の南向き緩斜面に位置します。4基が調査され、出土した土器から6世紀後半から7世紀前半まで造墓されたと考えら

れます。玄室内には組合式石棺や造付石棺が残されており、須恵器、土師器の他、大刀、鉄鎌、玉類、砥石が副葬されていました。

愛宕山横穴群（横須賀）

県立横須賀高等学校内にあった愛宕山横穴群は、4基からなる横穴群です。副葬品は、須恵器、鉄鎌、耳飾りなどが発見されています。須恵器のうち、副葬品専用と考えられる全国的にも珍しい3つの足が付いた三足壺がありました。この地域では7世紀に須恵器の生産が始まりましたが、それを任された役人の墓であるかもしれません。大須賀地域では、愛宕山横穴群のほかには、6基からなる十二社神社横穴群（大淵）が知られるのみです。

開発予定地内に遺跡はありませんか？ 工事の計画前に確認してください。

掛川市内には現在704遺跡が確認されていて、県内でいちばん遺跡が多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの”心のふるさと”であり、後生の人たちに伝えていく大切なものです。

そのため、「文化財保護法」により、遺跡がある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などを行う場合には、事前に文化庁へ届け出をすることが義務づけられています。

届け出をしないで工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり完成が遅れてしまった・・・ということがないように、工事を計画する場合には、早めに教育委員会にご相談ください。

なお、教育委員会、図書館には、市内にある遺跡の位置を記した『遺跡地図』があります。静岡県教育委員会文化課のホームページでも遺跡地図は公開されています。工事を計画する前には必ず確認してください。

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係

電話（0537）21-1158

主要横穴位置図

